

# 命を得るために

箴言 9 : 1 - 6

ヨハネによる福音書 6 : 53 - 59



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年8月18日

聖霊降臨後第13主日

聖光教会にて

今日の旧約聖書は「箴言」でした。この箴言、旧約聖書では詩編の次に収められていますが、どれくらい親しまれているでしょうか。わたしたちが使っている3年周期の主日聖書日課で、箴言がどれくらい出てくるかと調べてみました。すると3年でたった1回。B年の特定15、つまり今日だけなのです。それですから今日はまず箴言に触れてみましょう。

「箴言」という題の「箴」は竹の針ですね。チクッと刺されると痛い。そのように、この世を信仰をもって生きて行く上で必要な大事なことを、時にはチクッと刺して心にしっかり残るような格言を集めたのが「箴言」という書物だと言えるでしょうか。

さて今日の箴言第9章はこう始まっていました。

「知恵は家を建て、七本の柱を刻んで立てた。」9:1

「知恵」が主語です。知恵がまるで人のように、人格を持って活動している。これは8章からそうです。

「知恵が呼びかけ／英知が声をあげているではないか。」8:1

その8章を読んでいくと、知恵が自分のことをこのように語っています。

「御もとにあつて、わたし〔知恵〕は巧<sup>み</sup>みな者となり／日々、主を楽しませる者となつて／絶えず主の御前<sup>みまえ</sup>で樂を奏し  
主の造られたこの地上の人々と共に樂を奏し／人の子らと共に楽しむ。」8:30-31

このように知恵は神さまの近くにおいて、そのみ前で音楽を奏でるなどして、日々神さまを楽しませる。同時に地上でも音楽を奏でて、人々とともに楽しむ、というのです。知恵は神を楽しませ、人を楽しませる。神とともに、人とともにみずからも楽しむ。

神も人もともに喜び楽しむ。これが本来、神が創造された世界です。それが破壊されてしまった。もう一度その世界を回復したい。それが神の願いであり、そのために神は今も働いておられ、主イエスも働いておられる（ヨハネ 5:17）。それでわたしたちも働くのです。

さて元の9章に戻りましょう。神を楽しませ、人とともに楽しむあの知恵が、ここではこんなふうに活動しています。

「1 知恵は家を建て、七本の柱を刻んで立てた。

2 獣を屠<sup>ほふ</sup>り、酒を調合し、食卓を整え

3 はしためを町の高い所に遣わして／呼びかけさせた。

4 『浅はかな者はだれでも立ち寄るがよい。』

意志の弱い者にはこう言った。

5 『わたしのパンを食べ／わたしが調合した酒を飲むがよい

6 浅はかさを捨て、命を得るために／分別の道を進むために。』」

知恵は家を建て、肉と酒（ぶどう酒ですね）を用意して食卓を整えて、人を遣わして人々を食事に招きます。立派な人、模

範的な人だけを招いているわけではありません。「浅はかな者」「意志の弱い者」——このような率直な言い方が箴言の特徴です——が招かれています。「わたしの用意した栄養あるおいしいものを食べて飲みなさい」。そう呼びかけている知恵には、切なる願いが、目的があります。

「浅はかさを捨て、命を得るために／分別の道を進むために」  
命を得て、まっとうな道を歩んで行けるように、わたしの用意したよいもの、素晴らしいものを食べなさい。そうすればあなたは命を得て力づけられ、神の道を歩むことができる。このように知恵は呼びかけます。

ところで旧約聖書続編に「バルク書」というのがあります。その中に「知恵」について不思議な言葉が出て来ます。

「その後、<sup>のち</sup>知恵は地上に現れ、人々の中に住んだ。」 3:38

これは、何だか降誕のイエス・キリストを示しているように聞こえます。

そう言えば、ルカ福音書はイエスの幼少年時代についてこのように語っています。

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。」 2:40

「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。」

2:52

箴言に語られていたあの知恵。神に愛され、神を楽しませた

知恵。人とともに楽しんだ知恵が、今はイエスのうちに宿って活動している。そのように読むと、旧約聖書と旧約聖書続編と新約聖書がつながってきます。

今日の箴言第9章で、知恵が食卓を整えて人々を招いてこう言っていたことを思い出しましょう。

「わたしのパンを食べ／わたしが調合した酒を飲むがよい  
浅はかさを捨て、命を得るために／分別の道を進むために。」

驚いたことに、今日の福音書で主イエスが同じことを言われています。

「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。」ヨハネ 6:53-56

わたしたちの主イエス、わたしたちの救い主は、わたしたちを生かしたいのです。弱っているわたしたちをご覧になって、わたしたちを元気づけたいのです。わたしたちを貴い者と見てくださる主は、わたしたちに命を得させたいのです。

この方は、わたしたちが自分のことを心配する以上にわたしたちのことを心配してください。この世界と教会の悩みと痛みを、ご自分のものとして悩み痛んでください。わたしたちとこの世界を救うためには、ご自分の何も惜しまれない。ご自分の全部を差し出してくださいました。それがイエス・キリストの十字架です。

そしてイエスは、ご自分の命がわたしたちに宿るように、パンとぶどう酒の聖餐を用意してくださいました。

箴言の中で知恵はこう呼びかけていました

「わたしのパンを食べ／わたしが調合した酒を飲むがよい  
浅はかさを捨て、命を得るために／分別の道を進むために。」

今やイエス・キリストは同じように、否、それ以上にわたしたちにこう言われます。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしも（原語を見ると「わたし」が強調されています！）またいつもその人の内にいる。」ヨハネ 6:56

わたしたちとともにいることが、わたしたちのうちに宿ることが主イエスの喜びです。主とともに喜びをもって生きていくように、世界を再創造される神の業に参加して力強く生きていくことができるように、ご自分の愛の命を提供しようとして、主イエスは今わたしたちを聖餐の食卓に招いていてくださいます。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたのみ言葉がわたしたちの命となりますように。あなたご自身が言われたように、あなたの聖餐、あなたの肉と血がわたしたちのうちに宿って、わたしたちの心と体を愛と平和と祝福で満たしてくださいますように。アーメン